

第5学年1組 社会科学学習指導案

第5学年1組 30名
授業者 佐野 勝規

1 単元名

情報社会に生きるわたしたち ―「情報をつくり、伝える」― 【日本文教出版】

2 単元目標

- ・我が国の産業と情報との関わりについて、放送、新聞などの産業が国民生活に大きな影響を及ぼしていることなどを理解するとともに、聞き取り調査や映像、新聞など、各種の資料で必要なことを調べ適切にまとめる技能が身に付くようにする。【知識及び技能】
- ・情報を集めて発信するまでの工夫や努力などに着目して、放送、新聞などの産業の様子をとらえ、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、調べたことや考えたことを表現する力を育てる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・情報をつくり伝える仕事について、学習問題などの解決に向けて意欲的に追求するとともに情報社会に生きる一員として、情報の送り手と受け手の立場から多角的に考え、受け手として正しく判断することや送り手として責任をもつことの大切さについて考えようとする。【学びに向かう力、人間性等】

3 指導にあたって

【児童観】

本学級の児童は、社会科や総合的な学習の時間において、時事のニュースや地域社会の取り組みに興味・関心があり、意欲的に調べたり、発言したりしようとする。これまで学んできた南あわじ市の産業や文化の特色や、農業・漁業に携わる人の工夫などにも触れ、調べたことを発表しながら学級の仲間と知識を共有してきた。また、地域の祭りの話や、普段の生活の話などから、自分たちが暮らしている地域の産業や文化を大切にしていきたいという姿勢を強く感じる。また、本校では朝の会において話し合い活動を取り入れている。話し手に対する質問の仕方や答え方が定着してきているが、質問者が話し手に対して一つ質問をして答えてもらうという状態であり、「他の人はどう思いますか。」という全体に拡げる発言があっても、話の深まりが弱い。そのため、この授業での話し合い活動において、質問者が全体に意見を求めるような発言から話が拡がり、深まっていくよう期待している。

【教材観】

本単元は、「放送、新聞などの産業と国民生活とのかかわり」について調査したり、資料を活用したりして調べることを進める。また、情報化の進展は国民生活に大きな影響を及ぼしていることや、情報の有効な活用が大切であることを主な学習内容としている。

本教材では、まず情報とはどのようなものかを確認する。次に、どのようなメディアで情報を得ることができるかを自分たちの生活をふり返りながら、様々なメディアの種類や役割について話し合う。そして、それぞれのメディアが様々な情報をどのように扱い、伝えているのかということメディアの仕事という視点で捉える。これらのことからメディアの仕事や役割を知るためにどのようなことを学習していけばよいか、児童自らの発言から学習計画を立てていく。

学習計画を立てる際、多くのメディアについて知りたいという児童がいると考えられるが、文字や写真など手に取って見ることができると新聞を始めに扱うことにする。まず、新聞からの情報とはどのようなものがあるのか。次に、新聞ができるまでの行程を調べることで、どのようにしてわたしたちのもとへ届けられるかを知ることができる。さらに、他社との内容を比較することにより、表現方法などの伝え方や間違った記事が載ることによる影響など、新聞の情報がわたしたちに与える影響を話し合い、どのように利

用し、関わっていけばよいかについても考えることができる。そして、新聞での学習を通して、メディアそれぞれのメリットを知り、情報を適切に活用しながら生活していることに気づかせる機会となる教材である。情報の受け手としてだけでなく、送り手が情報を作り、発信するときの工夫や努力にも触れることで、情報についてより深く考えることができると思う。

【指導観】

小単元の導入では、情報の意味をおさえ関心をもたせるとともに、学習課題を考えさせる。そして、メディアの特徴をおさえ、学習計画へつなげる。学習計画づくりでは、様々なメディアの種類の中でも、手に取って内容を見ることができたり、他社と比較が容易であったりするものは新聞であることを気づかせるようにする。次に、新聞にある情報とはどのようなものがあるのかを知るために、記事の 카테고리 や書かれ方をよく確認させて、ノートにまとめ、班で気づきを共有させたい。そして、多くの情報が掲載された新聞が一日で消費者に届けられる仕事の早さなどにも注目させ、どのようにして作られ、届けられているのかを本やインターネットを利用して調べ学習を行う。そして、同じ日の神戸新聞と徳島新聞を比較させ、始めに気づいたことを個人でノートにまとめ、後に班で気づきを共有させる。この共有した気づきをもとに、児童には、書かれている内容や書かれ方が異なっていることで、消費者にどんな影響を与えることになるのかを考えさせる。出し合った考えから、わたしたちは新聞をどのように利用し、関わっていけばよいかについて考えさせる。児童には自分なりの考えを持たせ、他の意見と比較することで、情報の受け手として、気をつけなければならないことがあるということに気づかせたい。新聞での学習を生かして、他のメディアについても調べたいという意欲につながっていくことを期待する。

4 観点別の評価規準

【知識・技能】

- ・我が国の産業と情報との関わりについて、放送、新聞などの産業が国民生活に大きな影響を及ぼしていることなどを理解し、聞き取り調査や映像、新聞など、各種の資料で必要なことを調べ、適切にまとめる技能が身についている。

【思考・判断・表現】

- ・情報を集めて発信するまでの工夫や努力などに着目して、放送、新聞などの産業の様子をとらえ、それらの産業が国民生活に果たす役割を考え、調べたことや考えたことを表現しようと努力している。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・情報をつくり伝える仕事について、学習問題などの解決に向けて意欲的に追求しようとするとともに情報社会に生きる一員として、情報の送り手と受け手の立場から多角的に考え、受け手として正しく判断することや、送り手として責任をもつことの大切さについて考えようとしている。

5 単元計画（全7時間）

「情報をつくり、伝える」

- | | |
|--------------------|----------|
| (1) 情報社会に生きるわたしたち | [1時間] |
| (2) メディアの特ちょうとは | [1時間 本時] |
| (3) 新聞の情報 | [1時間] |
| (4) 新聞ができるまで | [1時間] |
| (5) 情報が届くまで | [1時間] |
| (6) 伝え方とえいきょう | [1時間] |
| (7) メディアとわたしたちの関わり | [1時間] |

6 本時の目標

メディアの特徴を話し合うことから、情報の伝え手に関心を持ち、学習計画を考える。

7 防災の視点 (※)

災害時におけるラジオのよさや働きを調べることを通して、ラジオのメディアとしての特色をとらえるとともに、災害時におけるメディアの活用の仕方について考える。

8 本時の展開

学習活動	指導上の留意点 (○)・防災の視点 (※)
<p>1 情報はどのようなメディアから得られるかを考え、発表する。</p> <p>2 メディアの特徴を班で話し合い、全体で発表し、本時の学習課題を作る。</p>	<p>○身近にある新聞やポスター、テレビ、パソコン、スマートフォン、ラジオ等を挙げさせる。</p> <p>○自分なりの考えをワークシートに書かせる。</p> <p>○各メディアの長所・短所を挙げさせ、それぞれのメディアの特徴を確認する。</p> <p>※メディアの一部が災害時にも役立つことに気づく。</p>
<p>情報のことをもっとくわしく知るためには、どのような学習をしていけばよいか。</p>	
<p>3 各メディアのことをもっとくわしく知るために、これからどのような学習をしていけばよいかを班で話し合う。</p> <p>4 話し合ったことを発表し、これからどんな学習を進めていくか、全員で計画を立てる。</p> <p>5 授業のふり返しをする。</p>	<p>○新聞、テレビ、ラジオ、インターネットなどの情報は、どんな特長があって、どんな時に利用するかを考えることで、今後の学習計画を立てやすいことを伝える。</p> <p>○情報が人に伝えられるとき、どんな準備がされているのかを考えさせる。</p> <p>○児童が考えた今後の学習計画の流れを、板書に箇条書きで示す。</p> <p>○どのメディアを取り上げて学習していけばよいかを考える。</p> <p>○ワークシートに、これから学習していきたいことを書かせる。</p>

9 本時の評価

- ・それぞれのメディアの長所・短所をふまえ、自分なりの考えを書くことができたか。
- ・学習計画から今後の学習の見通しを持つことができたか。